

菊翔祭 文化の部



菊池高校生徒会では、コロナ禍で縮小されていた各企画を大きく見直し、今年度は外部からの観覧を再開したり、文化祭を通常の規模で実施したりすることを目標に尽力してきました。

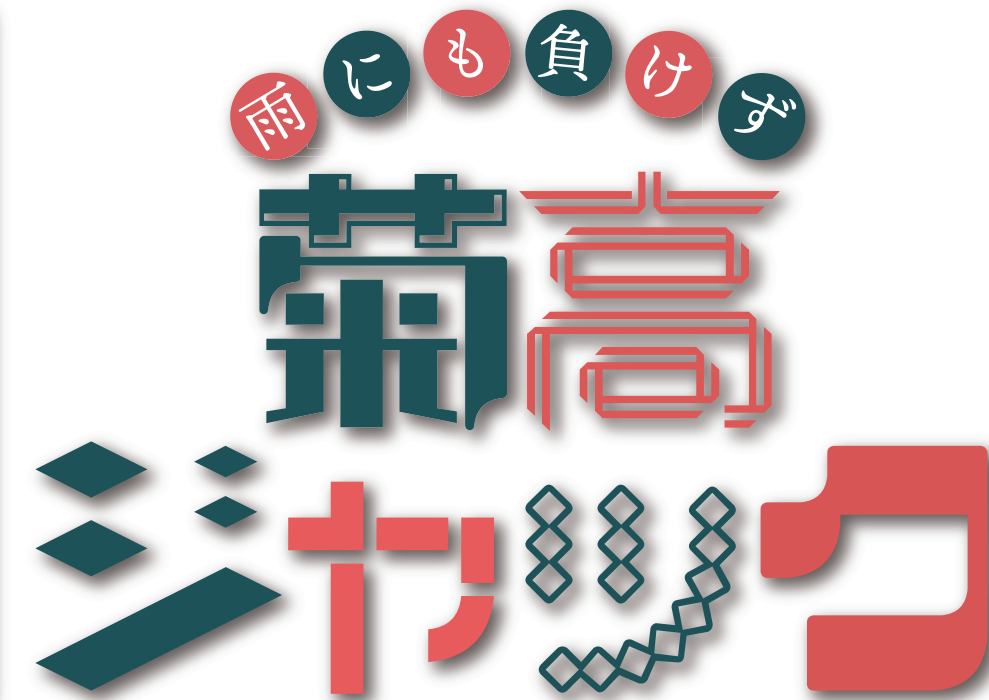
5月11日に実施した、体育祭に当たる「菊翔祭体育の部」では、各競技の立案、実施計画はもちろん、競技説明や準備の割り振り、規律の徹底などに努めました。本番当日は一致団結した姿を、観覧の皆様方にもお見せすることができたのではないかと思います。

また、11月2日の「菊翔祭文化の部」でも外部の皆様方の来場を前提に企画立案準備を行いました。各委員会や団体、部活動のステージ発表、各クラスの趣向を凝らした企画の数々をお披露目できたのではないかと思います。学校として保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで成功できたと感じております。

まだまだ課題が残る部分、生徒会としてぜひ実施したい行事などもありますので、現生徒会から始まり、次代につなげる中で更に発展させていく所存です。



今年で4回目となった「菊高ジャック」を紹介します。今年は1回目と同様に商業科のみで企画・運営しました。雨の心配もありましたが、何とか昼までは日差しが射す場面もありました。



菊高ジャック
生徒自ら商品を仕入れ販売しました。

今年は、石川県・能登の商品を仕入れ、震災や土砂災害の支援を目的に販売。例年人気がある商品だけでなく、県内各地の道の駅からも商品を仕入れて販売を行いました。

実行委員長村上一也君は、「お客様が少なく苦戦はしましたが、雨天に対応した店舗設営ができ、無事開催することができました。益金は少ないですが、被災された方に届けたいと思います」と話しました。

菊高ジャックは、3年生がリーダーとなり、1・2年生を指導しながら取り組んでいます。

3年生は、指導の難しさが一番の学びになったと振り返っていました。

キクザニア
今年で3回目の子供たちが職業体験を行うイベントで、今年は11のブースを準備することができました。

実行委員長の下田優空さんは、「今年は、タコバやキャンドル作りで楽しんでいました。皆さんが喜んで参加していただいたので、ほっとしています」と話しました。

スクール婚活
少子化対策の課題解決に向けた取り組みで、4回目の開催。男性5名、女性10名の参加があり、今年は2組成立しました。

実行委員長の下田優空さんは、「今年は、タコバやキャンドル作りで楽しんでいました。皆さんが喜んで参加していただいたので、ほっとしています」と話しました。

